

令和6年度第1回流山市史編さん審議会会議録

- 1 日時 令和6年9月25日（水）
午後1時30分から午後2時30分まで
- 2 場所 流山市立中央図書館会議室
- 3 出席者等
（審議会委員）
山田友治会長 相原正義委員 川根正教委員 清藤一順委員
高見澤美紀委員 笠間雄三委員 鈴木誠委員
（事務局）
田中教育長（途中退席） 北澤博物館長 岡田博物館次長
小川学芸係長 上條学芸員 松本学芸員
（傍聴者）
なし
- 4 欠席者
（審議会委員）
村田一二副会長 手塚雄太委員
- 5 議題
 - （1）令和5年度流山市史編さん事業報告について
 - （2）令和6年度流山市史編さん事業について
 - （3）流山市史研究第26号の投稿原稿について
 - （4）その他

令和6年度第1回流山市史編さん審議会会議録

※会議で出た発言の要点をまとめた。

(岡田次長)

令和6年度第1回流山市史編さん審議会を開催する。
配布資料について。

- ・ 会議資料
- ・ 会議次第
- ・ 座席表
- ・ 委員名簿

付属資料について

- ・ 令和6年度流山市立博物館催し物案内
- ・ 『ながれやま博物館だより』第4号、第5号
- ・ 令和4年度博物館年報
- ・ 『流山市史研究』第25号
- ・ 企画展「赤城神社に受け継がれた流山の記憶－赤城神社と人々－」
チラシ

会議録作成のため、録音を行う。発言は挙手の上、議長より指名がなされてから発言のこと。

教育委員会を代表して、田中教育長より挨拶をする。

< 田中教育長挨拶 >

(岡田次長)

続いて、北澤館長より挨拶をする。

< 北澤館長挨拶 >

(岡田次長)

教育長は公務のため、退席する。

< 田中教育長退席 >

(岡田次長)

次第に沿って進行する。流山市史編さん審議会条例第5条第3項の規定により、会議の議長は会長が務める。ここからは山田会長に進行をお願いする。

<山田会長挨拶>

(山田会長)

議事進行に先立ち、事務局に出席委員数の報告を求める。

(岡田次長)

委員9名のところ7名と過半数が出席している。流山市史編さん審議会条例第6条第2項の規定により、会議が成立している。

(山田会長)

次第により議事を進行する。議題(1)令和5年度流山市史編さん事業報告について、事務局より説明を願う。

(小川係長)

(令和6年度第1回流山市史編さん審議会資料をもとに令和5年度流山市史編さん事業報告について説明。)

(山田会長)

議題(1)令和5年度流山市史編さん事業報告について、ご意見をいただきたい。

(笠間委員)

古文書講座は今まで何人くらい参加しているのか。

参加者の興味を持つ講座の内容や年齢層の分析はしているか。

(松本学芸員)

定員はコロナ禍のときは15人。昨年5月に5類に移行してからは25人にしている。コロナ禍前は40人で実施する時もあったが、まだコロナウイルスが収束しきっていないため、25人で募集している。

講座の最後にアンケートを実施し、どういうテーマを取り上げてほしいかや、年代を記入してもらっている。60代以上、70代が中心である。

(北澤館長)

参加者の傾向は、リピーターの比率が非常に高くなっている。

(鈴木委員)

募集要項で全日程参加できることが条件になっていると、1回でも出られない日があると遠慮して参加しないというケースがあると思う。連続で講座が進むので、この募集要項の意味はわかるが、もし欠席があったとしても、スムーズに講座に入れるような内容で実施してくれれば、受けるほうは参加しやすいと思う。例えば、最初の5分、10分ぐらいを前回の振り返りにあてれば、成立すると思う。

(北澤館長)

講座は1回こっきりでやるパターン、3回連続でやる方式など色々ある。連続性のある講座はトータルで出ていただいてという意味もあるので、それぞれの講座ごとに対応が異なる。今後の講座のあり方は館として検討する。

(高見澤委員)

1 古文書解読事業で令和5年度は96点の解読が行われている。所蔵資料3万点余りのうち、現在の合計数は把握しているか。

(上條学芸員)

具体的な数字はすぐに出せないが、少なくとも現在目録を出している恩田家文書について読めるものは一通り解読を完了している。恩田家文書は約1万点、中村家文書は百数十点ほどが終わっている。

(高見澤委員)

かなりの数が出来上がっているということで、大変だと思うが、こちらの方は随時進めていただければと思う。

(川根委員)

中村家の所在地と家の性格を教えてください。

(上條学芸員)

中村家は近世村で三輪野山村という、村役人を務めていた家になる。家自体の構造の分析は済んでいない。

(山田会長)

他にご意見はあるか。無いようなら、次の議題に移る。

議題(2) 令和6年度流山市史編さん事業について、事務局より説明を願う。

(小川係長)

(令和6年度流山市史編さん審議会資料をもとに令和6年度流山市史編さん事業について説明。)

(山田会長)

議題(2) 令和6年度流山市史編さん事業について、ご意見をいただきたい。

(清藤委員)

古文書講座について、令和5年度は前期・後期となっていたが、令和6年度は1回のみなのか。

(松本学芸員)

令和6年度は古文書講座を1回実施の予定にしている。当館学芸員が講師をする分を減らして、外部講師に依頼する分のみにする。そのため、前期・後期ではなく1回ということで資料に表示している。

(川根委員)

今年度、恩田家目録の3冊目を出して、終了ということによろしいか。

文書点数が約1万点と言っていたが、文書目録を出そうという計画から何年ほどかかったのか教えてほしい。

(上條学芸員)

今年度の3冊目をもって、恩田家文書目録は全て刊行(完)となる。計画段階からだと少なくとも7年以上かかっている。

(川根委員)

はじめに解読から始めたのか。

(上條学芸員)

解読はすでに当時の臨時職員(現:会計年度任用職員)が進めていた。目録の作成にあたっては、解読は必ずしも必須ではない。恩田家については、解読が先に進んでいて、目録の準備が始まった。

(山田会長)

200冊は販売するものか、寄贈するものなのか。

(上條学芸員)

200冊のうち、8、9割は関係機関に配布するもので、販売分は十数冊程度である。

(川根委員)

次に目録を刊行する計画はあるか。

(上條学芸員)

恩田家の次は芝崎の吉野家文書を考えている。

(北澤館長)

数年前に芝崎吉野家、古間木芳野家両家から近世文書に関しては寄贈していただいた。特に芝崎の吉野家の資料に関してはかなり重要な資料があるので、恩田家が終わった後に優先的に目録作成を進めていく計画をしている。

(清藤委員)

議題(1)、(2)に共通するが、古文書解読・整理作業について、大変だと思う。これについて、古文書講座の参加者も解読・整理作業に

参加してもらおうような考えはあるか。市によっては行っているところもあると思う。

（北澤館長）

現在のところ、そのような形で進める予定はない。例えば、白井市は古文書ボランティアという形で解読作業を進めている。事務局としてもやる気のある方が多いことは存じ上げているが、育成していくという課題がどうしてもあるので、その体制を整えないと難しいと考えている。現状は導入の予定はない。

（清藤委員）

市民にお願いすることは先ほど言っていたとおり、色々な意味で大変だと思う。ただそのこと自体、古文書の普及にもなり、内容によっては職員の負担も減ることも考えられる。周辺の状況も見ながら、検討していただければと思う。

（山田会長）

他にご意見はあるか。無いようなら、次の議題に移る。

議題（３）流山市史研究第２６号の投稿原稿について、事務局より説明を願う。

（小川係長）

（令和６年度第１回流山市史編さん審議会資料をもとに、流山市史研究第２６号の投稿・依頼原稿について説明。）

今回は原稿の紹介に留めるので、委員におかれては、次回の審議会までに査読をお願いする。次回より、市史研究への掲載可否についてのご審議を賜りたい。

（山田会長）

議題（３）流山市史研究第２６号の投稿原稿について、次回までにご意見をいただきたいという事務局の提案だが、これについて何かご意見はあるか。

(清藤委員)

全体的に分量はこれで大丈夫か。

(北澤館長)

現在、事務局で考えている渡辺先生の講演録と投稿原稿3本すべて掲載されるかどうかという問題はあるが、これらに追加して事務局の方から第25号で一部紹介した流鉄関係資料(その2)を掲載する予定で準備を進めている。

刊行が来年度末になるので、予算についてはこれから確保していきたい。

(山田会長)

他にご意見はあるか。次回からは市史研究第26号の刊行に向けて、審議の準備を進めるようお願いする。無いようなら、次の議題に移る。

議題(4)その他について、事務局より説明を願う。

(北澤館長)

芝崎の吉野家周辺で現在、つくばエクスプレス関係の区画整理事業をする中で発掘調査が行われている。吉野家の屋敷の後ろで発掘調査が行われ、まだ速報段階だが、吉野家を囲むように溝が発見されている。ただ、現在の屋敷と若干位置がずれているので、それが直接関わるのかどうかは今後の調査に委ねられる。

同じ敷地内にある吉野家の塚の調査をする予定になっている。現在、伐採が進んでいて、11月、12月頃から調査に入る予定だが、伐採の形状を見ると、古墳時代前期にあるような方墳の形状をしている。

塚の上にあった板碑は吉野家から博物館に寄附を受けている。

(山田会長)

吉野家の場所はどこか。

(北澤館長)

芝崎で近世の芝崎村の名主をされていた家。戦国時代から土着の武士で高城氏の家臣である。戦国時代から現在まで続いている旧家になる。

(山田会長)

他にご意見はあるか。無いようなら、審議委員の皆様には、9月30日で今期の任期が終了する。このうち、村田一二委員は今期までとの話を頂いている。村田委員は平成18年度から長きにわたって委員を務められてこられた方で、皆様へは「これまでありがとうございました。」とお言葉を頂戴しているので、お伝えさせていただく。

また、10月以降の審議会は村田委員を除いた現委員の8名で行うので、よろしく願います。

他に何かあるか。無いようなら、事務局に返す。

(北澤館長)

公募委員の笠間委員と鈴木委員に関しては、来期の公募委員に応募していただき、次期も継続して委員を続けていただくことになった。

(岡田次長)

以上をもち、令和6年度第1回流山市史編さん審議会を閉会する。